

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 薬学部医療薬学科
名 前 市丸 嘉
作成日 令和 8 年 4 月 17 日

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 薬学部医療薬学科

名 前 市丸 嘉

作成日 令和 8 年 4 月 17 日

1. 教育の責任

私は湘南医療大学薬学部着任直後から、チューターとして薬学部生の教育支援に従事している。既に担当した授業科目は、早期臨床体験実習、化学系実習、医療薬学チュートリアル演習Ⅰ、有機化学実習、薬学総合プレ研究、医療薬学チュートリアル演習Ⅱ、創薬化学、後期臨床体験実習、卒業研究である。このほか、薬学共用試験対策演習、国家試験対策演習にも従事する。これらの担当科目のうち、1年次設置の化学系実習と2年次設置の有機化学実習では実施責任者の立場で、実習計画の策定、実習書作成、実習用消耗品の管理、成績評価などを通して主体的に責務を果たしている。薬学総合プレ研究や卒業研究でも、薬化学研究室所属学生に対して、実習科目と同様に主体的に教育責務を果たしている。創薬化学では、近年の薬剤師国家試験で出題頻度が高まり続けている医薬品化学分野の講義を担当している。学科内では、入職後から薬学部学生支援委員の一員として、感染症対策や学生生活動充実への取り組みを支援している。また、バレーボールサークルの顧問として、所属部員の指導にも従事している。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の教育理念は、薬学部6年制教育課程を修めた者として、新しい薬剤師教育を実践することである。私は薬学部6年制教育課程の第1期生として、自身の経験をいかした指導で、6年制教育課程の目指す薬学生の育成に取り組みたいと考えている。そこで私は、薬剤師免許取得後、教育研究活動と並行して、ドラッグストアや調剤薬局、COVID-19 ワクチン集団接種会場で薬剤師としての研鑽を積むことを自身に課してきた。これらの経験は、私の教育活動において、薬剤師として生きた言葉を学生に伝えることにに関して特に役立っている。

薬学研究における私の専門分野は基礎薬学である。特に、生物有機化学、医薬品化学、分析化学、生物無機化学の研究歴があり、これらの分野は化学、物理、生物にまたがっていることから、多くの薬学生が苦手とする分野で研究歴をいかした教育展開を意識している。また研究者としても学生から信頼されるよう、国際雑誌への英語論文投稿にも積極的に取り組んでいる。学生が研究マインドをもって薬学の分野で広く活躍できるように成長したいと考えるとき、薬剤師として、薬学研究者としての私の経験に基づいた指導は、学生の成長を大きく助けることができる。

2) 理念をもつに至った背景

薬学教育は2006年から従来の4年制教育課程から6年制教育課程に移行し、臨床現場での実習が義務付けられ、それに伴って臨床現場での実習に足る学力と技能を有するか試験する薬学共用試験の実施や、新制度の薬剤師国家試験が始まった。しかし、現在、全国の薬学部で教鞭をとっている教員のほとんどは4年制教育課程の出身者で、6年制教育課程を修めた教員は少数である。6年制教育課程ではこれまでに増して薬剤師の養成に焦点が当てられており、薬剤師としての勤務経験が教育に活用できる場面が多い。しかし、特に私の専門分野である基礎薬学系には、薬剤師経験がある教員はごく一部で、6年制教育課程を経験した者は更に少ない。そのため、基礎薬学系の教員は臨床から離れ、研究者としての視点のみで学生を指導してしまう機会があると感じてきた。自己研鑽の志があまり高くない学生には、基礎系の教員の言葉を理解しようとせず、考えることを放棄してしまうことも多いように感じる。そこで私は、薬剤師としての経験を積むように意識し、研究者としてだけでなく、薬剤師としての視点か

ら教育研究活動に従事することが、薬学部 6 年制教育課程を修めた者としての責務であると考えているに至った。

3. 教育の方法・戦略

私の教育戦略を一言で表現すると取捨選択である。薬学は様々な科学が交錯した非常に多様な学問領域から構成されている。しかし、薬学という学問領域に含まれるすべての内容が、薬剤師育成において均等に重要なわけではないと考えている。とりわけ基礎薬学の分野は、教員が薬剤師育成に必要なだと考える内容と、学生が薬剤師になるために必要だと思える内容の間に隔たりが大きい。そこで私は、薬学の中から、薬剤師育成に必要な内容を、薬学部 6 年制教育課程を修めた薬剤師としての視点から取捨選択し、教育することを意識している。具体的には以下のような方法で教育を行っている。

- ・ 共用試験、国家試験での重要性を勘案し、試験に必要、あるいは試験に必要な内容の基礎として必要な内容を授業する。
- ・ 化学以外の分野の基礎として必要な内容を授業する。
- ・ 薬剤師として働く上で重要な点を授業する。
- ・ キャリアパス形成に重要な点を授業する。

また、学生の目線に立って見やすい・理解しやすい・復習しやすい講義と資料作りを心掛けている。具体的には教科書、実習書を用いた講義資料の作成である。多くの場合、教科書や参考書などの講義指定図書がありながら、各教員がパワーポイントなどで講義資料を別途作成し講義を行っている。このような講義スタイルの問題点は、学生が教科書の重要性を認識しにくい点である。また講義中の板書をメモとして記録できない学生も見受けられる。結果、講義でカバーしきれない分野について学生が自発的に学習しにくくなると考えている。そこで、講義資料は指定図書や実習書に、重要事項や追加情報を書き込んだものを書画カメラで映写して（あるいは PDF 化して）提示するようにしている。学生は、提示した講義資料を見て、教科書のどこに何を書きとるかが一目瞭然で、書き写すことで情報をインプットできると考えている。また、授業を欠席せざるをえない事情がある場合も、学生間で情報共有をしやすくする利点もある。

これらと併せて、学生には理解度の確認、問題点の認識ができるような問いかけ（問題演習）を行っている。問いは、学生が「手が届きそう」と思える課題を、「自分で」発見できるように工夫している。具体的には学生が答えられそうな質問と、カバーできていない領域を指摘する質問の提示である。こういった問いかけを可能にするために、まずは学生の学修成果確認、何が分かっている、何が分かっているのかを把握することに時間を割くようにしている。教授錯覚に陥らないようにするために、学生が基本的知識を修めていない場合でも、学生の話に耳を傾け、個々の学生の経験をいかしつつ、勉強の必要性を認識して自発的に学修にとりくめるような教育を心掛けている。

4. 学習成果

私が実習講義を担当した科目では、授業評価アンケートの結果から、授業スピードの適切さ、授業内容の理解度、講義資料のわかりやすさなどの点で、概ね 90%の学生に「ちょうどよい」と感じる授業を提供できている。また、自由記述でネガティブなコメントは出ていない。また、担当科目以外の授業内容についても質問しにくる学生がいることから、学生の学習意欲に応えられていると考えている。これまでに、担当学生から「知識がない、理解力が低いことを、馬鹿にしたり怒ったりしないので質問しやすい」というコメントがあったことから、教育方法・戦略に成果が表れていると考えている。講義を担当した科目では、「構造式の説明が非常にわかりやすい」「勉強した内容を復習するのに最適な問題が配られてよかった」などのコメントが毎年あり、良い学修に導いていると考えている。

5. 改善のための努力

- ・ 共用試験・国家試験情報の最新情報更新

開設間もないことから薬学共用試験や薬剤師国家試験の勉強に溺れている学生がいないため、私自身も最新の試験情報や過去問の情報が疎くなっていると感じている。次第に教育活動への影響が生じる可能性を危惧しており、定期的に情報収集の時間を設け、情報のアップデートをはかっている。

・ 最新の研究情報取得

研究環境が十分に整っていないため、文献調査が十分にできない。学外の共同研究者と協同して情報収集に努めている。

6. 今後の目標

私の教育研究活動における今後の目標は、短期的には現在の担当科目における学生からの評価の維持および向上と、研究成果の発信である。長期的には責任ある職位に就き、多くの科目を担当することである。現在、主として担当している科目に対する学生からの評価にはある程度満足している。今年度、および次年度以降も評価を落とすことがないよう、学生のニーズと、薬剤師教育の変化に合わせて対応していくことを目指す。また、対外的な評価にも影響する研究成果の発信にも継続的に取り組む。具体的には、筆頭著者あるいは責任著者として、英語論文を毎年最低でも1報は報告できるよう努力する。

【根拠資料】

シラバス、開発教材、授業アンケート、試験、レポートおよび課題、講義資料、指導した学生の就職先情報、指導した学生の卒業論文タイトル、発表論文、受賞歴、研究課題採択通知